



カトリック六甲教会 教会報

2016

3

No.531



「わたしが求めるのはあわれみであって、いけにえではない」(マタイ9・13)

聖年の歩みにおけるいつくしみのわざ

わたしたち皆にとって、この聖年の四旬節は、神のことばに耳を傾け、慈善のわざを行うことによって自己疎外を克服するのにふさわしい季節です。身体的な慈善のわざを通して、わたしたちは食料や衣服、住居、かわりを必要としている兄弟姉妹のうちにおられるキリストの肉に触れます。一方、精神的な慈善のわざ——助け、教え、ゆるし、忠告し、祈ること——は、自分たちが罪人であることにより直接的に触れさせてくれます。したがって、身体的な慈善のわざと精神的な慈善のわざを、決して引き離してはなりません。実際、困窮している人の中におられる、十字架にかけられたイエスの肉体に触れることにより、罪人は自分も貧しい物乞いであることに気づくという恵みを受けることができます。「マリアの賛歌」の中で「思いあがる者」「権力をふるう者」「おごり暮らす者」と呼ばれる人々も、この道をたどることにより、自分たちのために死んで復活した十字架にかけられたキリストによって、自らにふさわしくないほど愛されていることを知ることができます。人間が知識、権力、富という偶像によって満たすことができると錯覚している永遠の幸せと愛へのあこがれにこたえられるのは、この愛だけです。しかし、高慢な人、富や権力のある人々が、貧しい人の中で自分たちの心の扉をたたき続けておられるキリストにつねに心を堅く閉ざし、地獄という孤独の無限の深淵に陥るよう自らを裁いてしまう危険もつねに残されています。ここで、アブラハムの鋭いことばが、彼らとわたしたち皆の心に新たに響きます。「お前の兄弟たちにはモーセと預言者がいる。彼らに耳を傾けるがよい」(ルカ 16・29)。このことばに注意深く耳を傾けることは、罪と死に対する花婿の最終的な勝利をわたしたちが祝うための最高の備えになります。花婿は今や復活し、ご自分の再来を待ち望む未来の花嫁を清めようとしておられます。

回心にふさわしい時であるこの四旬節を、無駄に過ごさないようにしましょう。無償で与えられる神のいつくしみのすばらしさの前で、自らが身分の低い、主のはしためであることを認め(ルカ 1・38 参照)、自分が取るにたらない者であることに気づいた(ルカ 1・48 参照) 最初のかたである、おとめマリアのとりつぎによって祈り求めましょう。

パチカンにて

アッシジの聖フランシスコの記念日

(2016 年四旬節教皇メッセージより抜粋)

2015年度第6回地区役員会（2016年2月7日）議事録

アルフレド主任司祭、堤 評議会議長、各地区役員

- 1 教会行事の振り返り
- 2 教会行事の担当企画チームの確認
- 3 ご復活のお祝い
- 4 各地区役員の交代
- 5 2016年度地区役員会開催日

<行事報告>

「ユスト高山右近」 列福祈念ミサに参加して

2月7日（日）14時から大阪カテドラル聖マリア大聖堂で開催された、「ユスト右近の列福祈念ミサ」に与りました。私が着く頃には大聖堂はすでに多くの参列者でいっぱいでした。ミサは前田万葉大司教様の司式で厳かに行われ、私は幾多の試練を生き抜いた殉教者高山右近の生き方に思いを馳せながら、ミサに与っていました。

右近は大名の身分でありながら、世の富や名誉、権力に勝って神の愛こそが人を幸せにすることを確信し、迫害にあっても祖国を追われてもその確信に生き、生涯を閉じたのです。私たち信徒にとってその生き方を見ると、信仰とは何かを感じさせてくれます。そして、右近が孫たちに残した遺書には、「何よりも肝心なのは信仰を大切にす家庭を築くことだ」と書かれていたそうですが、実際に高山右近の生き方を見てみると、信仰に支えられた家族の絆を強く感じるのです。

（蛭田）



<行事報告>

祈りと音楽の集い

「四旬節の祈り」

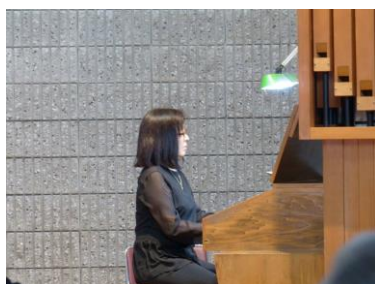
～オルガンと聖歌・讃美歌でつづる主の受難と私たちの祈り～

四旬節第2主日を迎えた2月21日、午後2時より主聖堂で「祈りと音楽の集い」が開催されました。当日は、薄日の射す冬空の下、他教会やプロテスタント教会、又フェイスブック等をご覧になってこられた方など、100名近い多くの方が集まりました。今回のプログラムは、「四旬節の祈り」という事で、大切な祝祭である復活祭に向けて準備をするための良い機会となりました。

内容は、讃美歌とカトリック聖歌の独唱とオルガンで、丁寧に暖かい歌声とオルガンの演奏でした。また、第2部では、私達も良く知っている、「いばらのかむり」や「苦しみ悩みの」、「ひとよ、汝が罪の」3曲を会衆の方々も一緒に歌い、心が一つになった素晴らしい時でした。

最後の、J. S. Bachの演奏は、手を使わない足だけの演奏で始まりましたが、厳かで華麗な演奏に聴衆の皆様も魅了されたことでしょう。『いつくしみの特別聖年』の最中「四旬節の祈り」に集い、

神様の慈しみが広く行き渡ります様に、回心と償いの業に心をとめ祈りを深めていきたいと思いをしました。ご準備下さった皆様ありがとうございました。次回も楽しみにしております。(堤)



《各部だより》 各専門部会の活動をお知らせいたします。

☞ 三日月会

3月21日(月)14:00 ミサと懇親会

4月18日(月)14:00 ミサと懇親会

☞ 教会学校

3月12日(土)～13(日) 終業式・卒業式合宿

3月13日(日)10時ミサ後 プチトマト公演

3月19日(土) 教会学校2年生1日練成会

4月3日(日)10時ミサ 初聖体・祝福式

4月9日(土) 教会学校始業式

☞ 地区会

4月10日(日)12:00 役員会

☞ 典礼部

3月20日(日)11:30

聖週間典礼奉仕者リハーサル

4月16日(土)10:00 典礼部会

☞ 宣教部

3月27日(日)12:30 部会

☞ 社会活動部

4月1日(金)初金ミサ後 連絡会

☞ 施設管理部

4月24日(日)12:00 部会

《お知らせ》 教会のみなさまに知って頂きたい活動やお知らせです

★社会活動部より★

3月2日(水)10時 手芸の集い(第1、第2会議室) どなたでも参加ご自由です。

3月12日(土)10時 炊き出し(イグナチオホールお台所)

小野浜グラウンドにて、おじさん達のお話し相手や、配食だけでもOKです。

3月15日(火)9時半 ともしび会ケーキ作り(イグナチオホールお台所)

3月17日(木) ベタニアの集い

3月20日(日)10時ミサ後 ふれあい広場(イグナチオホール)

4月24日(日)12時 社会活動部学習会

四旬節ゆるしの秘跡のお知らせ

聖なる三日間の心の準備としてのゆるしの秘跡は四旬節中、土曜日18時30分、日曜日7時15分、9時30分に時間を設けましたので、早めにお与り下さい。尚、司祭不在の時にはご了承下さい。

信仰と殉教の地 “平戸・生月島” 巡礼のご案内

★ 日 時 : 5月19日(木) ~ 21日(土) 二泊三日

★ 募集人数 : 35名 (最低推行人員 30名)

★ 同行司祭 : Fr アルフレド・ゼゴビア

弾圧の中でも決して信仰の火を絶やさなかった! かくれ切支丹の島 “平戸・生月”。



1500年頃フランシスコザビエルをはじめとするイエズス会宣教師が平戸・生月島で布教を行い、生月島では2,500人のほぼ全島民が切支丹となりました。

しかし、禁教令により信徒が島を離れたり、殉教したりと苦難をしいられました。多くの島民は隠れ切支丹として今にいたるまで潜伏時代の信仰形態をそのまま受け継いで、信仰を守っている信徒も多くおられます。

キリスト教弾圧の舞台にもなったこの二つの島を巡ることで、先人達の思いや苦難に思いをはせ、自分の信仰を見直すきっかけとなればと思ひ企画しました。多くの方のご参加お待ちしております。
(橋、川越)

『信仰とは、望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認することです。』

(ヘブライ人への手紙 11章 1節)



聖歌隊だより

旬節に入りました。いま、聖歌隊では四旬節の新しい歌や聖週間のミサで歌う聖歌の練習をしています。1年に1度歌うだけなのでよく覚えていない方、初めて歌う方などお気軽に聖歌隊練習においで下さい。

また、新しい「ローマ・ミサ典礼の総則」に基づく変更箇所に伴い、主日10時のミサに限り「アレレヤ唱」はアレレヤ以外の答唱句部分は聖歌隊のみで歌うことになっています。そして四旬節期間の「詠唱」はすべてを聖歌隊が歌います。「詠唱」も当日ミサ前に練習します。一緒に歌いたい方はお気軽に聖歌隊席にお越し下さい。

四旬節、聖週間の歌の練習をきっかけに聖歌隊にお入りいただければさいわいです。音楽経験がなくても大丈夫です。一緒に聖歌で賛美しましょう。

♪3月の聖歌隊練習♪

5日(土) 10時から12時 於: イグナチオホール

13日(日) 10時ミサ後11時15分から12時半 於: 聖堂

♪ 練習曲: 十字架賛歌、聖なる町に、Ave verum corpus など♪

尚、20日(日)9時からのミサ前練習は、十字架の道行きリハーサルになります(聖歌隊代表 清水)



教会報4月号の発行は4月3日(日)です。 原稿は3月20日(日)までに教会受付へ ご提出ください。 FAX及びメールでも受付いたします。 (広報部) http://www.rokko-catholic.jp	カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会 〒657-0061 神戸市灘区赤松町3-1-21 電 話 078-851-2846 F A X 078-851-9023 発 行 責 任 者 アルフレド・ゼゴビア 編 集 広 報 部
---	--